

(添付資料 2)

公益財団法人佐賀未来創造基金 平成 31 年(令和元年)度事業報告

平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年(平成 32 年) 3 月 31 日

【事業の趣旨】

当法人は、個人や企業の皆様から寄付を集め、社会的課題解決及びスポーツや芸術等による新しい価値の創造のための事業を行う市民社会組織（以下、「CSO」という。）、企業及び個人（以下、「企業等」という。）並びに日常生活又は社会生活を営む上で困難を有する者（以下、「社会的弱者」という。）に資金及びその他必要な資源を助成することで、地域における社会的課題解決及び新しい価値の創造に係る事業に取り組む市民立の財団法人である。

人口減少や高齢化、非正規雇用の増大等、切実な社会的課題・行政課題が顕在化する中、これらの課題に全て行政だけでは対応することが困難な状況である。このような状況において、地域や社会の課題解決や活性化及び新しい価値の創造に取り組む主体と CSO に対する期待は大きい。しかし、一方で多くの CSO は財政的基盤の脆弱さという課題を抱えており、CSO の活動を地域社会で支える仕組みの整備や、県民主体での公益活動の強化が必要となっている。また、貧困や災害等の様々な事情により、社会的弱者が行政や CSO 等の支援から漏れてしまい、社会から孤立化してしまうことも少なくない。

このような状況に対応すべく、当法人は、あらゆる人たちが主体的に地域の未来を担い合うために、資金その他必要な資源を循環させる仕組みをつくり、地域で支え合う社会を実現するために、CSO、企業等及び社会的弱者の支援、並びにそれらを支援する関係組織とネットワークを作り、このネットワークを活用したコレクティブインパクト事業を行うことを目的として設立された。当法人では、この目的のもと、次の事業を実施する。

※コレクティブインパクト事業とは

複雑化した社会的課題に対し、単一の団体のみで解決することが難しい課題も多く、CSO セクターでは様々なコラボレーションを通じて諸課題の解決に取り組んでいる。さらに、単なるコラボレーションに留まらず、CSO や企業、行政など組織の枠を超えて、お互いの強みを出し合い、社会的課題の解決を目指す仕組みを指す。

【事業の構成】

- (ア) CSO、企業等への支援事業
- (イ) 地域の社会的課題を解決する事業

【事業の内容】

- (ア) CSO、企業等への支援事業
(趣旨)

CSO は財政的及び組織的基盤の脆弱さという課題を抱えている。また、社会的課題解決や新しい価値の創造のための事業活動に関心を持っている企業等も予算、設備や人員といった財政的組織的な事情により対応できない、若しくは、対応が不十分なままで終わってしまうことも少なくない。そのため社会的弱者が地域に取り残されてしまうことにもつながっている。

このような地域の実情を踏まえて、CSO や企業等が社会的活動に必要な資金その他の資源、情報及び人材獲得のきっかけを提供するとともに、当法人が県内 CSO 及び企業等の寄付や人材等の受け皿として機能することにより、寄付文化及びボランティア活動の拡大を目指し、社会的課題解決及び新しい価値の創造に関する活動のための資金その他必要な資源、情報及び人材確保のための事業や地域から取り残された社会的弱者を支援する事業を実施する。

(1) 伴走支援事業

(趣旨)

CSO 等は組織基盤や財政基盤が脆弱であるうえ、課題解決のための事業遂行力も不十分である場合が多い。そのため当法人は中間支援組織として、CSO 等からの相談を受け寄り添った伴走支援を行う。

(内容)

行政及び企業と協働して地域における社会的課題を調査研究し、その解決及び新しい価値の創造のため CSO 等に対する次に掲げる各種支援事業を実施する。具体的には、行政ならびに企業と協働して対象となる CSO 等からの相談を受け、社会的課題解決及び新しい価値の創造のための支援についての相談、コンサルティング事業や人材育成及び組織基盤強化のための研修事業、寄付プログラム開発等の伴走支援を行う。

(対象者)

佐賀県に事務所を置く CSO、企業等

(募集方法)

チラシによる広報、ホームページ等への掲載、メールマガジン、ポータルサイト、SNS 等での情報拡散、県内 CSO へのダイレクトメールの送付、県庁、佐賀市の記者クラブへのニュースリリース等の方法により募集する。

(財源)

委託事業収益及び寄付金

(当年度実施事業)

- ・ 佐賀 CSO さいこう事業：

佐賀県の「佐賀 CSO さいこう事業」の補助を受けた CSO(8 団体)に対し、研修や助言など継続したサポートを行った。

- ・ 佐賀県誘致 CSO 定着支援業務：

県外から誘致した CSO(8 団体)に対し、人材確保支援、県内 CSO の紹介、行政機関への同行、事業紹介等を行った。

- ・ 非営利法人組織評価普及啓発支援業務：

一般財団法人非営利組織評価センターからの委託を受け、非営利法人に対する組織評価の普及啓発及び組織評価受診に関する相談、伴走支援業務等を行った。

- ・第三者組織評価説明会を令和元年10月11日(金)に開催し県内CSOから30名の参加者があった。
- ・佐賀県ソーシャルビジネス支援事業：
 - 佐賀県からの委託により、一定の基準を満たした団体(3団体)に対し、非営利活動の事業化についての助成、相談及び伴走支援を実施した。
- ・随時CSO等からの相談に応じ、必要に応じ調査研究やコンサルティング等を行った。

(2) 普及啓発事業

(趣旨)

県内CSOにおける財政及び組織基盤は十分と言える状況にはなっておらず、多くの県民やCSO担当者に寄付文化及びボランティア活動の普及啓発を目指した事業を実施する。

(内容)

Web, SNS等を活用し、寄付文化の普及啓発活動及び勉強会及び交流会の開催やボランティア活動に関する普及啓発及びボランティアを求めるCSOとボランティア活動に関心のある人とのマッチング事業を行う。

(対象者)

佐賀県に事務所を置くCSO、企業等及び佐賀県在住の個人

(財源)

寄付金

(令和元年度実施)

- ・さがつくAWARD2019：
 - 令和2年2月15日に「さがつくAWARD2019」を開催し、佐賀県誘致CSOの現況報告、大口寄付者への感謝状贈呈、寄付集めプレゼン大会等を実施した。(参加者200名)
- ・さがつく大交流会：
 - 一般参加者、県内CSO及び誘致CSOとの交流、活動内容のプレゼン大会等を行う「さがつく交流会」は、新型コロナウイルス感染症対策のため今年度は中止した。

(3) 佐賀県遺贈相談活用センター運営事業

(趣旨)

人生の集大成としての寄付である遺贈寄付や資産寄付が、寄付者本人の望む最適な形で実現し、寄付した財産が地域の未来財産となり世代を超えて継承される社会を実現することを目的としている。

(内容)

当法人が加入している「全国レガシーギフト協会」の九州唯一の「いぞう寄付の窓口」として、無料相談窓口を設置。相談者ニーズに応じた専門家や寄付先相談機関、寄付受け入れ先の情報や書籍紹介等の情報提供や相談に対応する。

(対象者)

佐賀県に事務所を置くCSO、企業等及び一般県民

(令和元年度実施)

相談件数： 5 件(土地建物 4 件、墓地 1 件)

(4) 助成事業

(趣旨)

CSO は財政的及び組織的基盤の脆弱さという課題を抱えている。また、社会的課題の解決や新しい価値の創造のための事業活動に関心を持っている企業等も予算、設備や人員といった財政的組織的な事情により対応できない、若しくは、対応が不十分なままで終わってしまうことも少なくない。そのため社会的弱者が地域に取り残されてしまうことにもつながっている。

このような地域の実情を踏まえて、CSO や企業等が社会的活動に必要とする資金その他の資源等を提供する助成事業を実施する。

①各種寄付による助成

(趣旨)

当法人は本助成事業に応募し、選考の結果採択となった事業に助成を行うことで地域における様々な社会的課題の解決や新しい価値の創造を実現することを目的とする。

また、採択団体自らが寄付集めを実施することにより、採択団体の財源確保能力の向上を目指すとともに、寄付金募集の取組みを通じ、社会的課題の認知と理解を高め、事業内容や団体の存在意義を社会に発信して行く。

(内容)

『事業指定寄付』、『分野指定寄付』、『冠寄付』等の各寄付プログラム(助成)に、応募団体(以下、採択団体)が応募し、選考の結果、採択となった事業について、当法人と採択団体が、当法人の仕組み(ホームページでの寄付金募集等)を活用し、寄付募集期間に当法人と採択団体が一緒に寄付集めを実施する。寄付募集期間に集まった寄付金より事業運営費を除いた額を当法人より助成する。

※・『事業指定寄付』とは、当法人と参加する CSO が一緒になって寄付を集める「志金」調達プログラムである。当法人は、寄付集めの計画を参加の CSO と共に考え、寄付集めのツール(寄付付商品の企画、寄付付自販機、チャリティーコンサートの企画・運営等)や専用口座などの決済機能を用意する寄付プログラムである。

・『分野指定寄付』とは、特定の分野(子ども、教育、障がい者、介護、伝統産業、まちづくり、農林水産業、国際協力、途上国支援、働き方、文化・スポーツ・科学、環境、子育て、難病支援、学生支援、ソーシャルビジネス、NPO 支援等)に関する事業を行う団体及び個人を対象とした寄付プログラムである。

・『冠寄付』とは、寄付者の希望を反映して当法人が設計した寄付プログラムである。

(対象者)

佐賀県に事務所を置く CSO、企業等

(助成団体)

当法人の助成プログラムの採択団体

(助成金額)

当法人の助成選考委員会が合議の上、理事長の承認により決定した金額

(応募方法)

所定の事業申請書に必要事項を記入の上、当法人事務局まで簡易書留で郵送もしくは持参する。

(選考方法および選考委員)

当法人が設置する「助成選考委員会」が選考を行う。

(選考基準及び最終決定の方法)

当法人が規定する助成団体審査要綱による。

(最終決定の方法)

選考基準をもとに、選考委員の合議及び理事長の承認により採択の可否と助成限度額を決定する。

(財源)

『事業指定寄付』、『分野別指定寄付』、『冠寄付』等の寄付金

(令和元年度実施事業)

・事業指定寄付助成 : 18件 751,581円

・分野指定寄付助成 : 4件 19,823,984円

(さがっこ子どもの居場所/496万円、さがっここどもモノ/136万円、さがっこ入学奨励金/755万円
佐賀災害支援/594万円)

・冠寄付助成 : 4件 9,335,560円

(荏原環境プラント第2回「e-さが基金」10団体、2直轄事業769万円)

(佐賀新聞社第2回「Gogo さがスポ基金」3団体、45万円)

(佐賀新聞社第3回「ばぶばぶ基金」4団体、30万円)

(佐賀共栄銀行第10期「きょうえい未来基金」5団体70万円)

②休眠預金による資金助成

(趣旨)

本助成事業は、国及び地方公共団体が対応することが困難な社会的課題の解決を図り、民間公益活動の自立した担い手の育成並びに民間公益活動に係る資金を調達することができる環境を整備することを目的とする。この目的を達成することにより、社会的課題の解決のための自立的かつ持続的な仕組みが構築され、採択団体が民間の資金を自ら調達して事業の持続可能性を確保し、社会的課題の解決に向けた取り組みが強化されることが期待できる。

(内容)

当該助成事業は、一般社団法人日本民間公益活動連携機構(以下、「JANPIA」という。)から当法人が資金分配団体として採択されたことに伴い、「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律(以下、「休眠預金活用法」という。)及び同法施行規則等関連法令の規程にもとづき実施する事業である。

本助成事業において指定された特定の分野の活動(子ども及び若者の支援に係る活動、日常生活または社会生活を営む上で困難を有する者への支援に係る活動、地域社会における活力の低下その他社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動)に関する事業を

行う CSO、企業等を対象とし、対象者が本助成事業に応募し選考の結果採択となった CSO 企業等に対し助成する。

(対象者)

佐賀県に事務所を置く CSO、企業等

(助成対象団体)

休眠預金助成事業採択団体(休眠預金実行団体)

(助成金額)

当法人助成選考委員会で決定された金額

(応募方法)

助成申請書に必要事項を記入の上、当法人事務局まで簡易書留で郵送もしくは持参。

(選考方法)

当法人助成選考委員会において、当該委員会の委員が選考を行う。

(選考委員)

当法人助成選考委員会設置要綱により決定する。

(選考基準)

当法人が規定する助成団体審査要綱による。

(最終決定の方法)

選考基準をもとに、選考委員の合議及び理事長の承認により採択の可否と助成限度額を決定する。

(財源)

JANPIA との契約限度額

(令和元年度実施事業)

- ・当法人が資金分配団体に選定されるための活動

JANPIA による説明会、シンポジウム等への参加 (5/13 東京、5/14 長野、5/24 福岡)

JANPIA による面接への参加(8/29 東京)

JANPIA による研修への参加(10/11 東京、11/27,28,29 東京、12/16,17,18 東京)

- ・当法人のガバナンス、コンプライアンス体制の確立

コンプライアンス委員会開催(7/18 第 1 回、12/2 第 2 回)

- ・地域に於ける休眠預金活用に関する啓蒙活動

CSO の為の「休眠預金活用」緊急対話集会の開催(7/5 佐賀)

休眠預金等活用専門家会議開催(7/18 第 1 回、12/20 第 2 回)

「休眠預金活用」九州キックオフフォーラム開催(12/20 佐賀)

- ・(休眠預金実行団体)の募集、選考活動

地域説明会を佐賀、武雄、鳥栖、唐津にて開催し、募集・選考の結果、休眠預金実行団体として、4 団体(NPO 法人空家・空地活用サポート佐賀/助成金 1865 万円、NPO 法人唐津環境防災機構 KANNE/助成金 1240 万円、一般社団法人おもやい/助成金 1872 万円、基山こどもねっと/助成金 1848 万円)が決定した。次年度から活動を開始する。

(イ) 地域の社会的課題を解決する事業

(趣旨)

近年、顕在化する地域での社会的課題の解決及びスポーツや芸術等による新しい価値の創造に取り組む主体として CSO に対する期待は大きい。しかし、貧困や災害等の様々な事情により、社会的弱者が行政や CSO 等の支援から漏れてしまい、社会から孤立化してしまうことも少なくない。

このような状況に対応すべく、当法人は、あらゆる人たちが主体的に地域の未来を担い合い、地域で支え合う社会を実現するために、CSO、企業等及び社会的弱者を支援する関係機関と連携したコレクティブインパクト事業を行う。

(1) 他団体への参画及び共同事業の実施

(趣旨)

当法人の目的に沿った県内の団体と共同で活動することで、CSO や企業、行政など枠組みを超えて、それぞれの強み、専門性を活かして活動することを目的とする。

(内容)

当法人の目的に沿った他団体との事業に参画し、必要に応じて事務局業務の一部を担う。具体的には、次に列挙するような事業やそれに類する事業に参画し、地域の CSO や社会的弱者からの相談を受けたり、当法人が実施する伴走支援、寄付募集及び資金その他必要な資源の助成について情報提供を行ったり、各関係団体との連絡調整等の業務を行う。

(対象者)

CSO、企業等及び社会的弱者を支援する関係機関

(財源)

寄付金

(令和元年度実施)

① さが・こども未来応援プロジェクト事業

(趣旨)

こども食堂をはじめとした「こどもの居場所」を増やし、繋ぎ、連携していくことで、地域での孤立化を防ぎ、子どもの社会的孤立が生まれない地域コミュニティを作っていくことを目的とする。

(内容)

認定 NPO 法人地球市民の会、認定 NPO 法人 NPO スチューデントサポートフェイス、NPO 法人 Succa Senca、NPO 法人さが市民活動サポートセンター、当法人にてさが・こども未来応援プロジェクトを組織、さらに佐賀県こども家庭課とも協働して、「こどもの居場所」設立及び運営に関わる相談支援、ネットワークづくり事業、資源循環マッチング事業、行政・企業・CSO 等との連携事業、直接的な生活弱者等の支援事業をおこなう。

(対象者)

こどもの居場所運営者及び設立希望者、社会的孤立の可能性のある子ども及びその家庭
(本年度実施事業)

1) こどもの居場所づくりや運営に関する事業

- ・子どもの居場所と支援者の「縁結び交流会」を佐賀(8/24 参加者 83 名)、唐津(10/27 参加者 19 名)、鳥栖(12/8 参加者 29 名)、武雄(2/9 参加者 28 名)にて開催した。
- ・子どもの居場所運営者によるネットワークの発足式を開催した。(8/23 佐賀)
- ・子どもの居場所に食材や文具等を届ける「こどもモノ」事業を実施した。

② コミュニティ・エリアマネジメント事業

(趣旨)

地方で増加していく空き家をはじめとした遊休不動産に対して、それをリノベーションするだけではなく、地域コミュニティと連携して価値を再確認することで地域コミュニティの活性化につなげていくこと、また、高齢化してゆく地域で遺贈などの受け皿としての役割も果たしてゆくことを目的とする。

(内容)

空き家をはじめとした遊休不動産等の相談対応、勉強会、ネットワークづくり、行政・企業・CSO 等との連携、直接的な生活弱者等の支援等

(対象者)

空き家をはじめとした遊休不動産の管理者と地域コミュニティのメンバー等

(当年度実施事業)

- ・NPO 法人空家・空地活用サポート佐賀が「佐賀さいこう事業」の伴走支援対象団体であることから、ロジックモデルを使った長期事業計画の立案を支援した。

③ 佐賀災害支援プラットフォーム事業(災害対応と防災)

(趣旨)

同時多発的に起こる災害に対して県内外のネットワークを作ることで、災害対応をはじめとした緊急・復旧・復興支援から地域づくりまでをワンストップで対応できる仕組みづくりを行うことを目的とする。

(内容)

災害に関わる相談支援、ネットワークづくり、資源循環マッチング、行政・企業・CSO 等との連携、直接的な生活弱者等の支援等

(対象者)

災害対応や支援する CSO、企業、個人、災害被害を受けた生活弱者

(当年度実施事業)

県内外の中間支援組織などで作る「佐賀災害支援プラットフォーム(SPF) 34 団体」に参加し、8月に発災した「佐賀豪雨災害」に際しては「佐賀災害支援プラットフォーム佐賀災害基金」を立上げ募金活動を行ない、「緊急助成佐賀災害基金助成プログラム」と「第2期佐賀災害基金助成プログラム」により、594 万円を 36 団体に助成した。

④ ソーシャルビジネス支援ネットワーク事業

(趣旨)

当法人はじめ、金融機関、専門士業及び県内の CSO、中間支援団体と共同で、非営利組織

の法人化や社会的課題解決に貢献する活動の事業化を促進することを目的とする。

(内容)

相談、伴走支援や各種研修、関係機関との連絡調整等

(対象者)

佐賀県に事務所を置く CSO、企業等

(当年度実施事業)

第3回「事業評価(ロジックモデル)導入支援研修」(4/26)を、日本政策金融公庫佐賀支店 佐賀共栄銀行、九州ろうきん、(一社)市民生活パートナーズと協働して開催した。NPO 法人空家・空地活用サポート佐賀、認定 NPO 法人地球市民の会、NPO 法人アニマルライブが自団体の事業計画をロジックモデルを用いて作成し発表した。

(2) 社会的弱者への資金助成

(趣旨)

貧困や災害などの様々な事情により、行政や CSO などの支援から漏れてしまい、社会から孤立している社会的弱者を支援することを目的とする。

(内容)

企業からの寄付やクラウドファンディングなどで集めた資金を、社会的弱者に助成する。

(対象者)

佐賀県民

(応募方法)

所定の事業申請書に必要事項を記入の上、当財団事務局まで簡易書留で郵送もしくは持参する。

(選考方法及び選考委員)

当法人が設置する「助成選考委員会」が選考を行う。

(選考基準)

当法人が規定する助成団体審査要綱による。

(最終決定の方法)

選考基準をもとに、選考委員の合議及び理事長の承認により採択の可否と助成限度額を決定する。

(財源)

寄付金

(当年度実施事業)

高校進学に対して金銭的困難を抱える子どもに対して、「2020年度進学者用入学応援給付金」プログラムにより 39 名に助成した。(755 万円)

()法人運営・管理

- 基本財産、公益目的財産等の保有・管理状況

当法人の基本財産である 300 万円は平成 25 年 6 月 4 日より佐賀銀行の定期預金口座に預け入れ、保有・管理している。

○理事会、評議員会の開催状況について

	開催年月日	主な決議事項等
評議員会	令和元年6月22日 令和2年3月17日	第1号議案 平成30年度事業報告及び決算報告と監査報告の承認について 第2号議案 平成31年度理事の選任について 第1号議案 定款の一部変更について
理事会	令和元年6月01日 令和元年7月11日 令和元年7月25日 令和元年9月30日 令和元年11月09日 令和2年2月15日 令和2年3月17日	第1号議案 平成30年度事業報告及び決算報告と監査報告の承認の件 第2号議案 平成31年度事業計画・予算案の変更の件 第3号議案 民間公益活動を促進する資金分配団体への応募の件 第4号議案 新規規定類の承認の件 第5号議案 運転資金の短期借入れの件 第6号議案 令和元年度定時評議員会の開催日時、場所及び付議事項の件 第1号議案 代表理事及び業務執行理事の選定の件 第1号議案 事務局規定の制定の件 第2号議案 印章取扱規定の制定の件 第3号議案 専門家会議規則の制定の件 第1号議案 倫理規定に特別な利益に与える行為の禁止条項を追加する件 第2号議案 役員の利益相反防止のための自己申告等に関する規定を利益相反防止の自己申告等に関する規定とし定期申告条項を追加する件 第1号議案 職員給与規定に賞与定数表を追加する件 第2号議案 顧問の退任、新任の件 第1号議案 定款変更の件 第1号議案 令和2年度事業計画の件 第2号議案 令和2年度事業予算の件